

# pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ニュース 第 c1 号

2016 年 05 月 発行

作成者： 日本語 T<sub>E</sub>X 開発コミュニティ (<https://texjp.org/>)

## 1 この文書について

この文書は pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> <2016/05/07> community edition について、アスキー版 <2006/11/10> からの更新箇所をまとめたものです。以前のアスキー版の変更点については、plnews\*.tex や Changes.asciimw.txt を参照してください。今後のコミュニティ版の変更点については、plnewsc\*.tex で説明します。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X レベルでの更新箇所は、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X に付属の ltnews\*.tex などを参照してください。

## 2 コミュニティ版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の説明

元々の pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は、株式会社アスキー（現アスキー・メディアワークス）が日本語化した pT<sub>E</sub>X エンジンとともに配布していた、日本語版 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X です。ここでは、これを「アスキー版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X」と呼びます。

pT<sub>E</sub>X は横組だけでなく縦組にも対応した高品質の日本語組版ソフトウェアとして、デファクトスタンダードの地位にあるといえます。この pT<sub>E</sub>X やその上で動く pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は長らく日本国内での利用にとどまっていたのですが、2010 年に国際的な T<sub>E</sub>X Live というディストリビューションに取り込まれ、世界中のユーザが簡単に日本語の組版に pT<sub>E</sub>X と pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を利用できる環境が整いました。同時に、pT<sub>E</sub>X もコミュニティベースで改良や仕様変更が加えられるようになりました。最近の T<sub>E</sub>X Live や W32T<sub>E</sub>X では、pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X も元々の pT<sub>E</sub>X ではなく、その拡張版 ε-pT<sub>E</sub>X をエンジンとして用いるようになっていました。また、pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のベースとなっている L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X も更新が進められ、特に 2015 年には相次いでカーネルのコードが変更されました。

アスキー版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は <2006/11/10> の版を最後に更新が停止しているようで、こうした変更の影響でいくつかの不整合が生じてしまいました。この不整合や残っていたバグを修正するのが、コミュニティ版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の目的です。コミュニティ版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X はアスキー

版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X をベースに、日本語 T<sub>E</sub>X 開発コミュニティによって開発されます。開発中の版は GitHub のリポジトリ<sup>1</sup>で管理しています。これにあわせ、pT<sub>E</sub>X の内部コードを Unicode 化した拡張版である upT<sub>E</sub>X の上で動く upL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X も、コミュニティ版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と同期させてあります。upL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の開発中の版も pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と同様に、GitHub のリポジトリ<sup>2</sup>で管理しています。

## 3 脚注番号前後や tabular 前後などの不自然なアキの削除

2013 年の pT<sub>E</sub>X の仕様変更で、脚注番号や tabular 環境、\parbox[c]{...}（または minipage 環境）の前後<sup>3</sup>に \xkanjiskip 由来のアキが入るようになっていましたので、対策しました。（参考：T<sub>E</sub>X Forum 913、T<sub>E</sub>X Q&A 57084、T<sub>E</sub>X Forum 1783）

また、\underline{...}の前後が和文字である場合にも一律に \xkanjiskip 由来のアキが入っていました。これも不自然だと考え、アキを削除しました。

## 4 縦組で Overfull 警告が出るバグの修正

縦組時に \@outputbox の深さ分の補正が無効になっているバグのせいで Overfull \vbox の警告が出ていましたので、修正しました。（参考：T<sub>E</sub>X Forum 1442）

## 5 縦組で「Å」が乱れるバグの修正

ベースライン補正量 \{y,t\}baselineshift がゼロでない場合に、合成文字が乱れることがありました。

<sup>1</sup><https://github.com/texjporg/platex>

<sup>2</sup><https://github.com/texjporg/uplatex>

<sup>3</sup>これらの命令は、内部的には \hbox の中でいったん数式モードに入るといった処理を含んでいます。

特に「Å」のアクセント位置が縦組で大きく乱れていたため、対策しました。

## 6 トンボが縮む問題への対処

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X tools バンドルに付属する multicol パッケージ (2015/03/07 v1.8j – 2016/02/08 v1.8o) を使うと、pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のトンボが縮むという問題が発生していました。これは multicol 側のバグ<sup>4</sup>によるものですが、何らかの理由で不用意に `\boxmaxdepth` が小さく設定されてもトンボが正しく出るように修正しました。

## 7 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X <2016/03/31> への対応

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X <2015/01/01> で追加された `\emminnershape` を pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X にも採用しました。これは `{\em ...}` という強調命令を入れ子にした場合の書体をユーザが指定できるものです。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X によるデフォルトの定義は `\upshape` ですが、pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X では従来版に合わせた `\mcfamily \upshape` を採用しました。

## 8 latexrelease パッケージの追加

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X <2015/01/01> で追加された latexrelease パッケージと同等の platexrelease パッケージを導入しました。これは、過去 (<2006/11/10> 以降) の pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X をエミュレートするために用いることができます。pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の互換性が必要な場面で役に立つかもしれません。詳細はパッケージのドキュメントを参照してください。

## 9 ascmac パッケージの更新

ascmac (tascmac) パッケージのバグ修正と一部の仕様変更です。

- pict2e パッケージとの共存で出るエラーを解消
- itembox 環境や screen 環境の角が理想値からずれていたのを修正

<sup>4</sup>これは 2016/04/07 v1.8p で修正されました。

- `\maskbox` や `\Maskbox` が段落の先頭で正しく働かない不具合を修正 (以上 3 点、bxascmac パッケージ<sup>5</sup>より。ありがとうございます、ZR さん)
- 環境直前の改段落：  
shadebox 環境の直前で改段落しないと版面をはみ出す不具合を修正。併せて boxnote 環境も `\par\vspace{.3\baselineskip}` で始めるよう変更。
- ベースライン補正：  
`\tbaselineshift` だけでなく `\ybaselineshift` も退避・復帰。`\keytop{...}` を使うと以降すべてでベースライン補正がゼロになるバグの修正。itembox 環境のタイトルと shadebox 環境内でもベースライン補正を維持。
- その他:`\keytop` の角が理想値からずれていたのを修正、`\keytop[c]{...}` 前後の `\xkanjiskip` 由来のアキを削除。

## 10 その他の変更点

pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の概要については platex.pdf を、実際のコードは pldoc.pdf を参照してください。コードの変更履歴も pldoc.pdf の末尾で確認できます。

一般のユーザにはあまり関係ない変更として、pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 起動時のバナーを定義するコードを改良しました。従来は、読み込んだハイフネーション・パターンの情報を起動時のバナーに表示するためだけに、コードを追加した独自の hyphen.cfg を使用していました<sup>6</sup>。この方法を廃止して pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X カーネル内で対処したため、今後は独自の hyphen.cfg が不要になりました。

## 11 開発版とバグレポート先

コミュニティ版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と upL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X はアスキー版 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X とは異なりますので、バグレポートはアスキー宛てではなく、日本語 T<sub>E</sub>X 開発コミュニティに報告してください。T<sub>E</sub>X Forum や GitHub の Issue システムが利用できます。

- <https://github.com/texjorg/platex>
- <https://github.com/texjorg/uplatex>

<sup>5</sup><http://zrbabbler.sp.land.to/bxptool.html>

<sup>6</sup>トノさんによるコードです。参考: T<sub>E</sub>X Q&A 31691